



NAHO YASHIRO

野城 菜帆

株式会社MizLinx
代表取締役

SBIRでの 取り組み

持続可能な水産業のための 統合的沿岸域モニタリングシステムの開発

SBIRでは「持続可能な水産業のための統合的沿岸域モニタリングシステムの開発」というテーマにて、陸海を統合した沿岸域の観測システムと、解析システムの研究開発を実施しています。自身は研究代表者として、研究開発および事業化のプロジェクトマネジメントの役割を担っています。

略歴

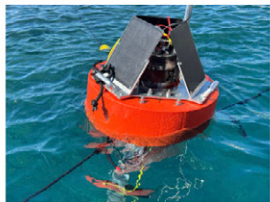
2021年：独）情報処理推進機構 未踏アドバンスト事業採択
2021年：大学院在学中に株式会社MizLinxを設立、代表取締役に就任
2022年：慶應義塾大学大学院理工学研究科 修士課程 修了（大学院ではシミュレーションによる月面探査車の運動解析の研究に従事）
2023年：Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2023受賞
2025年：東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程 入学

目指すCxO像

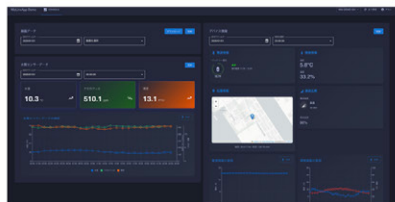
業界を代表し、国際的なリーダーとなれるような経営者になりたいと考えています。

ビジネスモデル

事業構想



観測機器販売料
350万円~/台



システム利用料
月額1~5万円程度



データ活用コンサルティングサービス料
数百万円~/件

サービス提供



サービス提供



国・自治体・民間企業



一次産業従事者



利用料
データ



データ

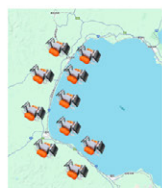
技術シーズ

コアテクノロジー

沿岸域のデータを取得できる観測・解析技術

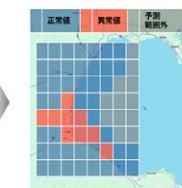
取得可能なデータ

水温、溶存酸素、塩分、pH、濁度、クロロフィル、流向・流速、映像・画像



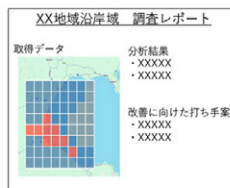
モニタリングIoT機器の設置

競争優位性：多点・多
種類の実データ取得



陸海統合沿岸域シミュレーション

競争優位性：陸海統合型
のシミュレーションモデルの構築



顧客要望に応じた
レポート・コンサルティング

競争優位性：実データおよび調査ノ
ウハウの蓄積に基づいた打ち手の提
案が可能

